

2式段階までは、比較的関東系の土器が見られるが、加曾利B3式段階になると西日本系の縁帯文系の土器が優勢となる。ごくわずかであるが、後葉の凹線文系の土器が見られる。やはり後期の遺跡数の減少に伴う資料数の不足は否めない。

晩期のまとまった資料は確認されていない。

以上、浅薄であるが、久々野町内の縄文土器を概観してみた。基本的には飛驒地方各地の縄文土器のあり方と同じである。しかし、当地は、東西南北の文化交流の接点とも言うべき地点に位置するため、前期の神ノ木式に見られるように、縄文土器の編年を考える上で貴重な資料を多く提供している。今後、精緻な研究が積み重ねられて行くことを期待したい。

第3節 飛驒における早期条痕文系土器について

藤原遺跡においては、器形の復元できた茅山下層式をはじめ粕畑式等の、いわゆる条痕文系の土器が見つかった。

縄文早期後葉のいわゆる条痕文系の土器は、まず、関東地方の貝塚の調査によって編年の枠組みが明らかにされて来た。つまり、絡条体圧痕文を特徴とする子母口式、尖底で細隆起線文や太形の沈線文が描かれる野島式、平底化し、二段の屈曲のある器形で、細い竹管文が多用される鶴ヶ島台式、段が緩やかになり、凹線や幾何学的な構図を表す刺突文を特徴とする茅山上層式、文様が乏しく、わずかに隆線や粗い斜縄文が施された茅山上層式への変化である。これらの型式は、型式学的に連続性をもつものであり、また、関東を中心に東北から近畿さらには広島県のあたりまで分布する、斉一性の強い型式群である。この茅山上層式に並行して、東海地方の粕畑式があり、これ以降、上ノ山式、入海式、天神山式（石山）と続く東海地方の条痕文系土器は分布の中心が東海地方にある。東海系の条痕文系土器は小平底あるいは尖底となり、胎土の繊維量は漸次減って行く。

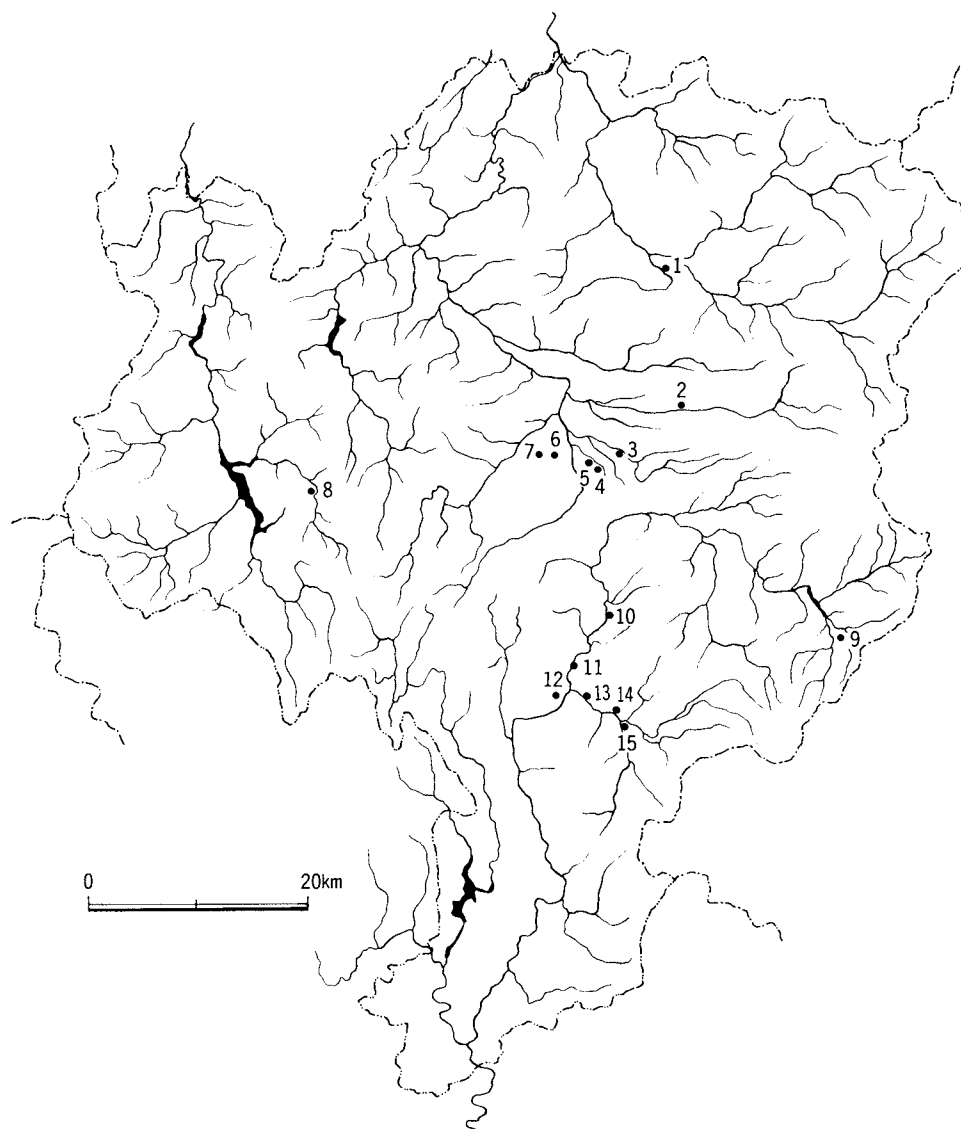
この時期の土器としては、飛驒では、上ノ山式の復元土器もあるが、その様相はいまだ十分明らかにされていない。ここでは、資料の集成を試みたい。

1 田影遺跡（吉城郡上宝村本郷田影）

茅山式類似土器片として報告されている資料がある。文様の施文具およびモチーフ等から鶴ヶ島台式類似といえる。

2 根方岩陰遺跡（大野郡丹生川村根方馬ツギ）

小八賀川の右岸に位置し、石灰岩の断崖基部に南面して開いた岩陰である。昭和38年と昭和



第28図 早期条痕文系土器出土遺跡

60年に発掘調査がなされている。

昭和38年の発掘調査によると、下層下部より、茅山式類似土器、粕畑式、上ノ山式が出土し、中層下部から入海Ⅰ式、入海Ⅱ式、石山式が出土している¹⁾。

3 白元遺跡（高山市漆垣内町山腰）

貝殻縁の圧痕が水平に連続し内面に貝殻条痕が見られる土器などがあり、入海式段階の土器が出土している。

4 向畑遺跡（高山市江名子町向畑）

入海式から石山式段階の土器が出土している。

5 ひじ山遺跡（高山市江名子町諏訪ヶ洞）

第二群の繊維土器A式とされるものは、粕畑式の特徴を示している。

6 石ヶ谷遺跡（高山市西之一色町石ヶ谷）

入海式から石山式段階の土器が出土している。

7 松原遺跡（高山市上岡本町松原）

第一類とされた土器は、粕畑式の部類に入ると考えられている。

8 桐ヶ洞遺跡（大野郡莊川村六厩桐ヶ洞）

『岐阜県史』によると、粕畑式が出土している。

9 下幕岩岩陰遺跡（大野郡高根村留ノ原）

上ノ山式の復元土器が見つかっている。文献（高山考古学研究会1984）によると、「資料は約3分の1を欠失するが、口縁から底部までを備えた17片の破片からなっており、石膏修復なくしてもその全形を知ることが出来た。高さ37cm、口径27cmの円錐形をなす深鉢土器で、底部は径4cmの乳頭状に突起する。口縁部に一条の、上下より交互に押さえた突帯をもち、口縁内側には貝殻縁による引きずる様な刺突が並んでいる。外面全体にわたって斜位の貝殻条痕文が、内面には横位の条痕文がみられ、胎土に繊維を含んでいる。焼成は極めてよく、堅緻で、黄味を帯びる褐色を呈している。器厚は底部を除いて7～9mmの間にある。口縁に近い3カ所に、ひび割れ補修と思われる孔が1対ずつ穿たれている。土器表面は永く地表に露呈していたらしく、部分的に苔の付着がみられた²⁾。

10 藤原遺跡（大野郡久々野町長淀）

第4章で述べたように、茅山下層式、粕畑式等の条痕文系の土器がまとめて出土した。

11 門坂シズマ遺跡（益田郡小坂町門坂）

平成3年に発掘調査され、縄文中期前葉を中心とした遺跡であるが、上ノ山式と思われる土器片が1点出土している。

12 橋場遺跡（益田郡小坂町大島巾上）

押型文土器が主として出土しているが、内外両面に条痕を施し、さらに爪形文が認められ、波状口縁の口唇上にも爪形が施文されている粕畑式と思われる土器が出土している。

13 味屋遺跡（益田郡小坂町長瀬味屋）

縄文前期を主体とした遺跡であるが、繊維を含み爪形文が口縁内外に見られる粕畑式土器が出土している。

14 深作裏垣内遺跡（益田郡小坂町赤沼田深作）

石山式と思われる土器片が出土している。

15 南垣内遺跡（益田郡小坂町落合南垣内）

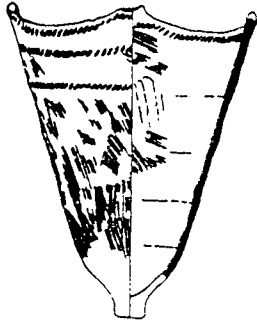
濁河川と小黒川の合流地点にあり、二段の段丘に位置している。第二段丘上より、粕畑式、上ノ山式、入海式土器等に相当する土器が出土している。粕畑式と思われるものは、繊維を含み、条痕を施し、爪形文を有する（第29図4、5、15）。

上ノ山式土器は、口唇部を指頭で押圧し、小波状縁を呈し、その下の凸帯を上下交互より押さえている（第29図7、8、9）。

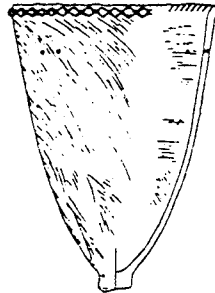
入海式もいくつかある。第29図14は、口唇部に貝によって内外面より交互に刻み目を付け、口縁部の凸帯の上にも貝によって縦に刻み目を入れている。11も凸帯の上に貝による刻み目が見られ、内外面に条痕が認められる。12、13、16、17等は、入海Ⅱ式に相当し、凸帯が平たくなっている。

（註）

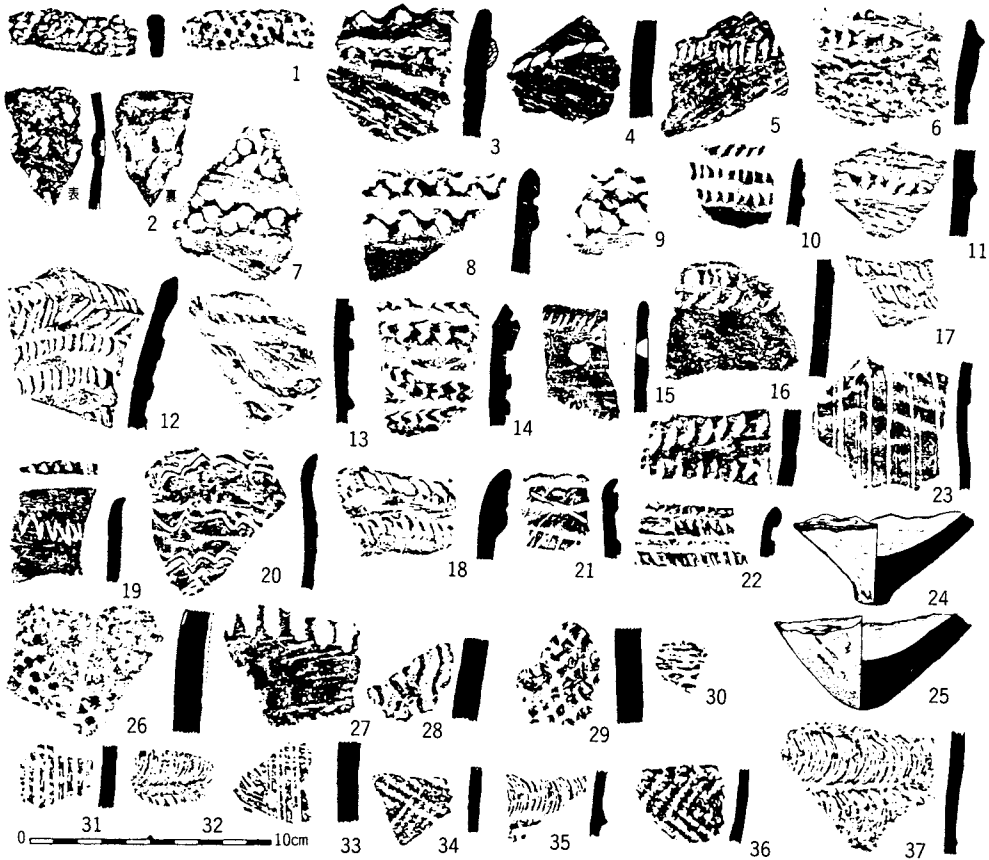
- 1）2）掲載した土器実測図は、岐阜県博物館「特別展 飛驒のあけぼの」のシンポジウム「飛驒からみた石器と土器の交流」資料より作成。



貝殻条痕文土器／丹生川村根方炭陰



貝殻条痕文土器／高根村下幕岩岩陰



南垣内遺跡出土土器

第29図 参考土器 早期条痕文系土器

[参 考 文 献]

- 赤木清 1936a 「江名子ひじ山の石器時代遺跡 その一」『ひだびと』第四年第四号
 1936b 「江名子ひじ山の石器時代遺跡 その二」『ひだびと』第四年第五号
 1936c 「飛驒の貝殻紋ある土器」『ひだびと』第四年第七号
 1937 「江名子ひじ山の発掘報告」『ひだびと』第五年第一号
- 安孫子昭二 1982 「縄文後期の土器 関東・中部地方」『縄文土器大成』3 後期
- 江馬ミサオ 1937 「渚出土縄文土器」『ひだびと』第五年第十号
- 大江 命 1965 『飛驒の考古学Ⅰ』
- 大江 命・下形 武 1958 『上宝村の先史時代』
- 大塚達朗 1986 「型式学的方法—加曾利B式土器」『季刊考古学』17
- 岡本 勇 1982 「縄文早・前期の土器 関東・中部地方」『縄文土器大成』1 早・前期
- 小坂町教育委員会 1978 『水口遺跡・ソラ遺跡』
 1984 『南垣内遺跡Ⅰ』
- 「角川日本地名大辞典」編纂委員会編 1980 『角川日本地名大辞典』21岐阜県
- 鎌木義昌編 1965 『日本の考古学』Ⅱ
- 川上寒朗 1935 「貝殻紋土器の発見」『ひだびと』第三年第一号
- 岐阜県 1972 『岐阜県史』通史編原始
- 岐阜県教育委員会 1990 『岐阜県遺跡地図』
- 岐阜県文化財保護センター 1992 『門坂シズマ遺跡』
- 清見村教育委員会 1989 『はつや遺跡』
- 久々野町教育委員会 1978 『堂之上遺跡 第1～5次調査概報』
 1980 『堂之上遺跡 第6・7次調査報告書』
- 国府町教育委員会 1988 『宮ノ下遺跡』
- 高山考古学研究会 1984 「高根村発見の上ノ山式土器」『岐阜県考古』第9号
- 西田泰民 1989 「堀之内・加曾利B式土器様式」『縄文土器大観』4
- 増子康真 1979 「岐阜県宮田遺跡」『東海先史文化の諸段階（資料編Ⅱ）』
- 吉田哲夫 1984 「木島系土器群の研究」『考古学研究』第31巻3号